

人生を輝かせる山登りのススメ(第30回)

世界遺産、熊野古道・伊勢路を歩く(後編)

2017.12.15

伊勢神宮と熊野三山とをつなぐ道、熊野古道・伊勢路。この約170kmに及ぶ道りを歩きながら伊勢路の魅力をお届けしていて、今回は後編に当たります。今回は紀伊長島までの古道歩きをレポートしましたが、後編は尾鷲から熊野までの峠歩きを中心に、伊勢路歩きに役立つ情報をお伝えします。

尾鷲からはいよいよアップダウンが激しくなりますが、数々の絶景との出会いが楽しみな道です。そして、旅の最後は熊野速玉大社へと至ります。全行程12日間を要した伊勢路歩きの後半をどうぞお楽しみください。

リアス式海岸を縫うように歩く峠越え

尾鷲市街までに越えた荷坂峠、始神峠などの峠は標高差200~300mの小さなものでした。しかし尾鷲からは、伊勢路でも一番の難所といわれる八鬼山(やきやま・標高647m)越えをはじめ、長い登り坂が続く曾根次郎坂、太郎坂などの山道が続く区間に入ります。なお、今回歩いている伊勢路のコースを確かめたい方は、三重県が運営するWebサイト「世界遺産熊野古道伊勢路」をご覧ください。



この地として知られる九鬼の漁港、熊野灘が一望できる

この辺りは湾や入り江が連続するリアス式海岸で、伊勢路はその地形がつくる細かい尾根を越えていきます。それぞれの尾根は、いつもの登山に比べれば標高は高くありません。しかし、海岸の0mレベルから数百mを登り、また下っては海岸に出るといったアップダウンのきつい道が続き、体力がジワジワと奪われていきます。

そんな中で励みになったのが峠からの大展望でした。息を切らせ、汗をかいて峠まで来ると、海の景色が一気に広がるのです。突き出したいくつもの岬と入り江、そして島々が浮かぶ海の景色はまさに絶景。登りの苦勞を癒やして余りある眺めでした。さらに峠をいくつも越えて石畳が美しい松本峠を過ぎると、ゴールまで残すところ約30kmです。熊野市街を経て、七里御浜(しちりみはま)という美しい海岸が続く、穏やかな街道を進みます。



美しい石畳が残る松本峠。古道らしい雰囲気が漂う



松本峠七里御浜に、浜沿いの道から熊野速玉大社へ向かう

七里御浜を歩き熊野川を越えて、旅の終着地へ… 続きを読む